

社殿は本殿、拜殿、其他神儀所等を具へ、境内は千六百十坪(官有地第一種)あり、本殿は山の中腹にあり、拜殿は麓にあり、谷川より幅二間の直路を行くこと三町にして、馬場に達す、山上の社邊古木蒼鬱たるが、古へはこの傍に鐘樓ありしと、當社祭禮は、維新以來は安樂寺法樂執行せしが、往古は遍照光寺神事に預りしといふ。

境内神社 龜神 津島神社

例祭日 九月十六日
神饌幣帛料供進 明治四十一年一月十二日
指定年月日 明治四十一年九月二十五日
告示第四百三十四號
氏子戸數 六十二戸
崇敬者員數 未詳

○静岡縣駿河國志太郡瀬戸谷村大字瀬戸ノ谷字高根

郷社 高根神社

祭神 伊邪那岐命 菊理比咩命 伊邪那美命

舊と高根權現、又は高根白山權現とも稱せり、創立年代詳ならず、但し傳へ云ふ、文治四年戊申、加賀國白山を勸請し奉りしと、所藏の古寫經の卷尾に、建久十年の文字見えたり、永祿十三年二月九日、武田家より社領を寄進せらる、其の文に「高根山權現御社領之事、可爲如前々云々」とあり、この文に依れば、今川家の頃よ

り神領寄進の事ありしや明らかなり、豊臣時代亦社領寄進の事ありしが、徳川時代となり、寛永十八年九月二十二日、朱印高二十五石を寄進せらる、明治八年二月郷社に列せらる。

社殿は本殿、拜殿、其他社務所等を備へ、境内は千四百七十一坪六合(官有地第一種)地は高根山の麓にあり、神木と稱する杉樹、及大杉と稱する老樹あり、共に周圍二丈四尺餘、當社の古へを語るもの、如し、高根山は近郷著名の高山にして、高さ五千五百尺餘、高根の稱是より出づと。

境内神社 津島神社 八幡社

例祭日 十月二十九日
神饌幣帛料供進 明治四十年三月十五日
指定年月日 明治四十一年九月二十五日
告示第四百三十四號
氏子戸數 千三百七人
崇敬者員數 未詳

○静岡縣駿河國志太郡藤枝町大字益津字岡出山

郷社 飽波神社

祭神 少毘古那命

相殿 瀬織津比賣命 蛭子神 天忍穗耳命

舊と川關大明神とも稱す、創立年代詳ならず、但し、當社は延喜式所載の飽波神社なりといふ、飽波神社は、